

くすりの道修町
資料館
(大阪府中央区)

みゆ〜
ザ・見遊じあむ

..... 14



入口に金色の虎の像がある少彦名神社

大阪府中央区の道修町といえは、江戸時代から続く「くすりの町」です。武田薬品、田辺製薬などの大手薬品会社から中小問屋まで、薬品関係の会社が東西にひしめきあっています。

340年の歴史を

持つ薬の町

この「くすりの町」の氏神が、「神農さん」の呼び名で親しまれている少彦名神社(すくなひこなじんじや)です。入り口にある大きな金色の虎の像が神社の象徴です。これは1822年、大阪でコレラが蔓延したとき、道修町で、虎の頭の骨から調合した薬が効果を発揮したことから。毎年11月22日、23日はこの神社の「神農祭」。道修町にたくさんある露店が並び、大阪の1年の祭りを締めくくります。

町資料館があります。神社ビルの3階フロアが展示室。「くすりの町のあゆみ」「道修町の商い」「結束と繁栄」「現在から未来へ」など、テーマに分かれてわかりやすく展示されています。この地が当時の問屋仲間の寄り合いの場所だったことから、少彦名神社には、代々の薬種株仲間によって書かれた、約340年前からの古文書が保存されています。道修町の薬種株仲間は、和漢薬の原料である薬種を幕府から公認されて特権的に扱うことができました。こうした膨大な古文書の中から、「企画展示」も行っています。「製薬企業の戦後60年」では、テレビのCMなどでよく知られた商品やポスター、宣伝物がズラリ。見ているだけでも懐かしさがあふれてきます。

ミュージアムメモ

▶所在地/〒541-0045大阪府中央区道修町2-1-8 少彦名神社内ビル3・4階▶入館料/無料▶開館時間/午前10時~午後4時▶休館日/日曜日、盆休み(8月13日~16日)、祝日、年末年始(12月28日~1月4日)▶交通/地下鉄堺筋線北浜駅⑥出口から徒歩2分▶問い合わせ/06-6231-6958

「手紙」



受刑者の家族にとっての「人生」とは、「幸福」とは

便箋に「桜」のマークが入った手紙。それは受刑者からの手紙であることを示しています。弟思いで、金欲しさに強盗殺人を犯して服役中の兄から、毎月のように弟のところに届けられる手紙。受刑者の弟というだけで、進学も、仕事も、恋愛も、すべてが破壊されていく人生を歩く弟。いったい、こんな人生がいつまで続くのか、受刑者の家族にとっては幸せはないのか、重たいテーマですが、兄弟、

友情、同僚、などさまざまな愛が一人の人生に大きく関わることを考えさせられます。

原作は、今年上半年の直木賞を『容疑者Xの献身』で受賞した、いま人気沸騰のミス터리作家・東野圭吾の同名小説。「罪を犯すとはどういうことか、刑罰とは何なのか、真の更正とは、そんなことを考えながら書いた」と東野圭吾さんの話。映画では原作にはない設定や場面がでてきます。とくに映画のラストは原作にはない部分です。しかし、このラストの方が映画的でわかりやすい気がします。生野慈朗監督の「人間って捨てたもんじゃないってことを伝えたかった」の言葉がしっかりと伝わってきます。

主演は『電車男』の山田孝之、『逆境ナイン』の玉山鉄二、『1リットルの涙』の沢尻エリカの三人。見てよかったですという思いで、映画館を後にする一本です。

大阪の戦跡を歩く

第13歩

大阪陸軍幼年学校跡
(羽曳野市)

15歳の少年たち
1200人が戦地へ



南海電車高野線の千代田駅から坂道を登り、高台にでると、独立行政法人・大阪南医療センターがあります。正門の右側にある付設の看護学校の敷地の一角に、台形のカタチをした大阪陸軍幼年学校跡の碑があります。太平洋戦争末期の1940年(昭和15)、陸軍兵

士を育て、戦地に送り出すことを目的に、学校はつくられました。木造2階建ての校舎が10棟、6年間にわたって、15歳の少年1200人を育成し、戦地へ。横の石にはこうした歴史の1ページが刻まれた碑文がありました。学校のあった高台は、皇居のある東京・千代田にちなんで千代田台と呼ばれ、今もその名が駅や地名として今に残っています。

撰津
河内
和泉
おおさか
三國誌
14
(門真市)
大阪の生んだ宰相
幣原喜重郎



門真市一番町の公園にある左が兄(坦・たいら)右が弟(喜重郎)の像

戦後、2人目の首相だった幣原喜重郎は、大阪出身者で唯一の宰相になったことでも知られています。喜重郎は1872年、今の門真市の豪農の次男として生まれました。東京帝国大学を出て、外務省に入り、1922年のワシントン軍縮交渉に全権委員として参加し、1924年から1931年まで、7年間、外務大臣として外交の第一線で活躍しました。とくに、外交にあたっては、「軍縮、国際協調」を基本にしていただけに、軍部からは「軟弱外交」として非難を浴びることになり、1932年に外務大

臣を辞任。その後、日本は軍部の台頭のもとで、満州事変から日中戦争、国際連盟脱退、日米開戦へと突き進んでいきました。喜重郎は天皇主義者でありながら、一方で大政翼賛会への加入を拒否し続けたといわれています。戦後、天皇制存続のアメリカ占領下のもとで、74歳で首相として政治の表舞台に引き出され、ポツダム宣言受諾、憲法制定に関わりました。憲法についてはその精神である「戦争放棄、戦力不保持」の意義と展望を説いたといえます。兄の坦は歴史学者として知られています。

詩集「月に吠える」
萩原朔太郎

月に吠える犬は自分の影に怪しみ、恐れて吠える。自身の陰うつな影を詩という言葉に。萩原朔太郎(1886-1942)は、群馬県前橋市出身の詩人で、今年は生誕120周年。室生犀星と「感情」を創刊。特異な感覚の新しい口語詩の世界をひらいた「月に吠える」に始まり、虚無と倦怠の「青猫」を経て文語詩「氷島」に至る作品は、近代抒情詩の頂点といわれています。片山恭一のベストセラー『世界の中心で、愛をさけぶ』の主人公・朔太郎は、萩原朔太郎にちなんだもの。

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

「人間万事、塞翁が馬」

「人間の幸、不幸は予測がつかないものである」という意味の言葉。辺境の地に住む老人の馬が逃げてしまった。近所の人の慰めに「これが幸につながらないはずがない」と老人。その後、逃げた馬が名馬を連れて帰ってきた。人々が祝うと「これが不幸につながらないはずがない」と老人。後日、老人の息子が名馬から落馬して骨折。「これが幸につながらないはずがない」と老人。その後、村の青年たちがほとんど軍隊にとられたが、老人の息子はケガのために免れた(中国の古書『淮南子』による)。「塞」は砦のこと。